授業科目名・形態	がん緩和ケア論　　講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	飛澤　貴子	実務経験の有無	有	開講期	３年後期
科目ナンバリング	N7-3002				

【授業の主題】

がん医療や治療の基本的な考え方、がんとともに生きる人々への包括的な看護援助を探求する。がん患者に生じやすい苦痛の発生機序を理解し、患者の生活や多様な状況に応じた全人的な患者理解と、主要症状に対する専門的な技術を用いた苦痛軽減の方法を学ぶ。緩和ケアを必要とする患者とその家族が抱える全人的苦痛を理解し、人間の尊厳を尊重した生活の維持について理解を深める。

【到達目標】

1. がん患者にみられる苦痛症状の発生機序、治療法を理解する。
2. がんの症状マネージメントの方法を理解する。
3. がん患者のエンドオブライフケアおよび家族のグリーフケアについて理解する。
4. がん看護における倫理的課題とその対処方法について理解する。

【授業計画・内容】

第 1回　がん医療の現状と看護
第 2回　がん患者とその家族の倫理的課題
第 3回　がんの治療法とがん看護の特殊性①
第 4回　がんの治療法とがん看護の特殊性②
第 5回　外来･病棟におけるがん化学療法と特殊性と看護　　（ゲストスピーカー:がん薬物療法看護認定看護師）
第 6回　アピアランスケアと看護
第 7回　がんリハビリテーションにおける支援
第 8回　緩和ケア・エンドオブライフケアの定義と歴史
第 9回　補完・代替療法と緩和ケア
第 10回　終末期にある人と家族の理解
第 11回　緩和ケアの実践方法
第 12回　緩和ケアにおける薬剤の活用と副作用への対処
第 13回　がん治療および有害事象に対する看護（グループワーク）
第 14回　終末期にある人と家族の事例から学ぶ　　（ゲストスピーカー:緩和ケア認定看護師）
第 15回　がん治療および有害事象に対する看護（発表）

【授業実施方法】

主として講義スタイルで行います。
第 13 回は提示した課題についてグループワークを行い、スライドを作成します。
第 15 回では第 13 回で作成したスライドをもとにプレゼンテーションと全体でディスカッションを行います。

【事前・事後学習】

講義内容に関する事前学習と復習、グループワークやプレゼンテーション等課題学習やレポートを含めトータル 60 時間程度の自主学習を行ってください。

【主な関連する科目】

成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

系統看護学講座 別巻 がん看護学第３版,医学書院,2023.

【参考文献】

鈴木志津枝、内布敦子編：成人看護学　緩和・ターミナルケア漢語論第２版,ヌーヴェルヒロカワ,1989.
その他、授業中に適宜、紹介します。

【成績評価方法】
レポート70%、グループワークへの取り組み・受講態度・発表など（30%）を総合的に評価する。60%以上の得点で合格する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】
総合病院でがん看護専門看護師として実践した看護を中心に、がん薬物療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師の実体験を合わせて、最新の専門分野の知識・技能を伝えたい。

【学生へのメッセージ】
机上で学んだことと臨地実習で学んだことを統合させ、がん看護のおける看護実践を体得して欲しい。